静岡理工科大学附属図書館　No. 65　October, 2019

図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1．学生選書ツアーを実施しました

9月10日（火）、戸田書店静岡本店において、中部地区では5年ぶりとなる学生選書ツアーを実施しました。LAの学生3名が店内を回り、実際に本を手に取って内容を吟味し、図書館に置く本を選びました。

学生選書ツアーは、図書館の蔵書の充実を図るとともに、学生が多くの図書に直接接する機会を設けることで、様々な分野への興味・関心を引き出すことを目的としています。今回の選書ツアーでは、プログラミング、電子工学、マーケティング、デザイン、小説、エッセイなどの図書34冊を購入しました。選書ツアーのほかにも、コンシェルジュの選書など、学生目線で選書した図書は注目度が高く、貸出率も高くなる傾向があります。今後も学生の意見や要望を図書館の選書に採り入れていきたいと思いますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。

＊購入した図書は、選書した学生による推薦カードを添えて展示しています。

2．学術機関リポジトリ ―利用状況報告と登録論文募集－

機関リポジトリとは、本学内において生産された知的生産物を電子資料として収集・保存・蓄積し、インターネットを通じて公開するシステムです。

○ 2019年2月公開から8月までの半年間の利用状況について
- 登録コンテンツ数：紀要論文232件、登録巻号：15-26巻（2007-2018）
- 論文ダウンロード数：　2,433件

○「静岡理工科大学紀要」27巻を9月19日に公開しました。27巻より電子版のみの発行となります。

○リポジトリに登録する学術成果物の登録・提供をお願いします。
- 登録対象：学術雑誌論文、学会発表論文、科研費報告書、調査・研究報告書など
- 登録のメリット：検索エンジンの検索対象になるため、より多くの人の目に留まります。

＊出版社・学会による公開許諾の確認等については、図書館で調査可能です。
登録可能な論文・報告書等がありましたら、お気軽にご相談ください。

3．静岡県図書館協会主催「大学・専門図書館研修」を本学で開催

9月4日（水）、県内の公共図書館及び大学・専門図書館職員を対象とした研修会が本学で開催されました。開会に先立ち、本学の小林久理眞図書館長から会場館代表としての挨拶をいただき、その後の研修では、事例報告として、学修支援と学生協働に重点を置いた「静岡理工科大学附属図書館の取り組み」の発表と図書館見学、午後からは外部講師による「IIIF入門」の講義と参加者同士による意見交換を行いました。

研修会には、県内の図書館関係者26名が参加。デジタルアーカイブ活用に関する最新情報の取得や他館職員との意見交換の場として有意義な研修会になりました。

4．本学教員の著作物紹介

《 建築学科 脇坂圭一先生，丸田誠先生ほか編著 》
『地域に開かれたえんがわ：静岡理工科大学建築学科棟えんつりー「プロジェクトブック」』
静岡理工科大学理工学部建築学科，2019. 6
【所在】教科書・東　526.37 / W33

読書への羅針盤

高橋 久 先生（電気電子工学科）に聞く

「ポジティブの精神」

今回は、電気電子工学科で電子回路・制御工学の研究をしていらっしゃる高橋久先生にお話を伺いました。

高橋先生の子どもの頃はおとなしい性格であり、百科事典が好きで読んでいたそうです。また興味があるものに積極的に挑戦し、自分自身でラジオや無線機の製作をした経験が今の電子回路や制御工学の研究に役に立っているとおっしゃっていました。また大学生の頃には自動車の改造をし、その時の経験が今のモータ制御や電気自動車・自動運転の研究に影響したともおっしゃっていました。

そんな高橋先生から是非学生に読んで欲しいとお勧めされた本は『何をしてもうまくいく人のシンプルな習慣』（ジム・ドノヴァン著・弓場隆訳、ディスカヴァー・トゥエンティワン）です。この本は人生の質を高めるために重要な話題が見開き 2 ページに書かれており、パッと開いて簡単に読める話題があるシンプルな構成になっています。

高橋先生は何事も前向きにポジティブに思考することをいつも心がけているとおっしゃっていました。例えば、電車に乗った時に満員で座れなかったとします。その時に「座れなかった。残念だ。」と思うのではなく「運動のできるチャンスができた」とポジティブな思考に捉えているそうです。またポジティブな思考を潜在意識に入れていると、現在意識も自然と潜在意識に合わせようとし結果的に質の良い人生に繋がるとおっしゃっていました。

高橋先生が質のいい人生を楽しむために意識をしてきたことが今回紹介していただいた『何をしてもうまくいく人のシンプルな習慣』に似ている内容で書かれており、「自分の考えを大切にし、自分の人生を歩むことが大切であり、そのために若い時から意識を持ちながら行動することが大切である」そのために実践できる習慣が簡単に学べる本なのでぜひ手に取って読んでほしいと紹介していただきました。

授業以外で関わったことがなかったので、インタビュー前は不安でしたが、いざインタビューが始まると、とても親しみやすく話しやすくあっという間の 2 時間でした。

高橋先生、お忙しい中インタビューをさせていただきありがとうございました。

【所在】西閲覧室 159 / D85

インタビュー・記録：電気電子工学科2年　石橋大覚　　記録・記事：電気電子工学科2年　芝田和紀

私の選んだ一冊

『真夏の方程式』　東野圭吾 著

「忘れないでほしい。君は一人ぼっちじゃない」湯川学がある人にこう言った。人に対して強く興味を持たない帝都大学教授の湯川は、ある夏、とある事件に遭遇する。死体に不可解な点があると分かった湯川は、この夏に出会った少年と事件を解決していこうとする。謎が解けていくにつれて湯川の表情は険しくなっていく。「ある人の人生を狂わせてしまう」事件の結末、事件のその後とは。湯川が選んだ結末はいかに。

物質生命科学科４年　片岡由奈

『死神を食べた少女』七沢またり 著

この小説は、主人公のシェラが内乱の中で戦っていくダーク・ファンタジーです。

推薦文を書くにあたってこの小説を選んだ一番の理由を挙げるとすれば、主人公の名誉などにこだわらない純粋さと戦いにおける強さ、この２つによって引き出される死神のような怖さが主人公のキャラクターを引き立てている点です。また、ストーリーのテンポもよく、読んでいて物語に引き込まれるような爽快感もあります。機会があればぜひ読んでみてください。

コンピュータシステム学科４年　渥美潤哉

田井 幹夫 先生（建築学科）の

一 手 指 南

推 薦 図 書

『しろばんば』井上靖 著 ／『新建築』新建築社 ／『陰翳礼讃』谷崎潤一郎 著
『夢十夜』 夏目漱石 著 ／ 『ノルウェイの森』村上春樹 著

そもそもあまり読書は得意ではない。教育者として失格かもしれない。でも本当に今までの人生で人より本を多く読んでいると感じたこともないし、いつももっと読まなくてはと身につまされている。そう思う一つの原因が自分の周りには本の虫が多かったから、比較としてそう感じてきたと言えるかもしれない。父の印象はほとんど読書している姿だったし、兄も物凄い勢いで本を相手にしていた。そして、妻も私よりはるかに多く読む。文学、指南書、雑誌問わず自宅には私の読まない類の活字が増え続けている。こう考えると、私は本よりも読書が好きな人間が好きなのかもしれない。

そんな自分でも今までの人生で記憶に残る本の経験がいくつかある。

一つは中学一年生での課題図書である「しろばんば」だ。単行本で厚さが3センチ近くあり、今までの本のイメージを覆すプロポーションだった。しかも上下二巻組み。とても読みきれる気がしなかったが、読み始めたら井上靖の自伝的小説で、瑞々しい少年期の出来事や、伊豆の美しい風景にはまってしまいさらりと読み切った。この本は「夏草冬濤」、「冬の海」と、同じくらいの厚さの本の３部作であった。癖になった私は勢いで読み切った記憶がある。

大学に入ると建築家を目指していたものだから、先輩に言われるがままに「新建築」という雑誌を真面目に毎月買い始めた。今まで雑誌といえば柔らかくて薄っぺらい紙を束ねたような印象だったが、この雑誌は流石に専門誌で、表紙もツルッとした上質な紙を用いた写真で、厚くて重くて、しかも広告ページが全体の1/3を超えていた。持っているだけで建築家の卵になった気がしていた。１冊２千円の雑誌は大学生には高くて、元を取ろうと広告も含めて舐めるように全て読んでいた。その経験が今となっては良かったと思う。

建築学科の必読書と言われて読んだ谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」はやはり素晴らしい。日本人の美学を見事に言い当てていて、短い作品ながら深くて重い。

学生の時に通っていた設計事務所のボスが、その頃吉本隆明と夏目漱石にはまっていた。いまだに吉本隆明は読みきった事がないが、夏目漱石はその頃読破した。全ての描写が映像のように日常を切り取っていて、少し陰鬱だったりするのだが心が踊った。その中でも「夢十夜」は全くテイストが違って驚きと感動に襲われた。

村上春樹は学生時代から今まで読み続けている唯一の作家だ。前述の先輩の家で赤と緑のハードカバーの「ノルウェイの森」を見つけて読み始めることになった。数年後、先輩の留学先のロンドンのアパートで、帰国するにあたって処分すると言って半ば強制的に押し付けてくれた。嬉しかった。

こんな風に本にまつわることを書いていると、本の内容というより、その時の状況や経験が瑞々しく蘇ってくる。それが読書の良いところだな。もっと読むことにしよう。

【所在】「新潮現代文学;28 井上靖」西閲覧室 918.6/Sh61
「夢十夜：他二篇」 文庫/北 913.6/N58
「新建築」雑誌/西 または 北閲覧室
「陰翳礼讃」西閲覧室 914.6/Ta88
「ノルウェイの森」文庫/北 913.6/Mu43

新着図書紹介

そのほかの新刊情報は▶図書館 Web サイト＞蔵書検索＞カテゴリ検索＞新着リスト

暗号と量子コンピュータ：耐量子計算機暗号入門：高木剛著，オーム社

富士山：信仰と表象の文化史
H・バイロン・エアハート著／井上卓哉訳，慶應義塾大学出版会

日本近現代史講義
成功と失敗の歴史に学ぶ：山内昌之，細谷雄一編著，中央公論新社

科学者は、なぜ軍事研究に手を染めてはいけないか：池内了，みすず書房

ビジュアルコア生物学：Eric J. Simon 著／石井泰雄ほか訳，東京化学同人

最新・未来のエンジン
自動車・航空宇宙から究極リアクターまで：内藤健編著，朝倉書店

感性と会話するデザイン：デザイン基礎講座：内田広由紀著，視覚デザイン研究所

オリンピック全大会：人と時代と夢の物語：武田薫著，朝日新聞出版

百の夜は跳ねて
古市憲寿著，新潮社

読書の契機と読書から得たもの

副図書館長　小栗勝也

恥ずかしながら、中学生まで読書と呼べるものを経験したことがなかった。高校一年の一学期、同じ部活の親しい仲間が何かの雑談の中で、それは夏目漱石の何々の小説で主人公が何々の場面で感じたことと同じだなあ云々という言葉を発したのを聞いた瞬間、びっくり仰天した。

あいつの頭の中には小説の場面が刻まれていて、それを例えとして咄嗟に言えるのに、私の中にはそのような引き出しは皆無であったから、恥ずかしいと思ったのである。私は無言のままであったが、心の中では稲妻が走る感覚を覚えた。

それから誰にも何も言わず、毎月の小遣いの全てを文庫本に代え、手当たり次第に乱読するようになった。以来、高校の三年間は部活以外は活字漬けの日々になった。夏休みには一日に二冊の文庫本を読んだこともある。ある時期は、武者小路実篤が好きになり夢中に読んだ。やがて近眼になり、メガネが必要となった。

だが、それだけやっても本物の読書家には遠く及ばなかった。それを実感したのは大学二年に上がる直前の頃、同じ大学に来た私より一つ年下の後輩の部屋に行った時に、壁一面に本棚が設置され、天井まで本が満載されていたのを見た瞬間であった。小学生が読むような易しい文学全集もあった。彼の蔵書の全てがそこにあるように思えた。私はこれ程までの本を持っていないし、小学生の頃などは活字など全く興味がなかった。再び恥ずかしいと思い、益々本の虫になった。

幸い大学生の私は関東地方にいたので、古本屋に接することが容易であった。古本屋が多くあることは文化が高いことのバロメーターである。高校まで住んでいた私の町には、そもそも古本屋が一軒もなかった。横浜や東京の古本屋では、入り口脇に日光に晒されて赤茶けた岩波文庫が十冊まとめて100円の格安で並んでいた。貧乏人の私でも安価で本が手に入る幸せをかみ締めた。後に神田の古本屋街にも足を運ぶようになったが、世界一の古本屋の集積地であることを実感した。だから私は東京へ行くことを薦める。静岡あたりで十分だと錯覚してはいけない。

高校から大学二年生位までの読書経験だけで、私はある発見をした気になっていた。それは、小説に出てくる明治時代の青年も、二千年前のギリシャの青年も、今の私と同じようなことで悩んだり苦しんだりしているという発見である。悩みの種は、大抵は女性かお金（就職も含む）の問題である。それで誰もが苦悩していたのなら、別に今の自分だけが特別に不幸である訳ではないことになる。この程度で普通のことなんだと思えると、心が少し楽になる。未来も灰色ばかりとは限らないと思えてくる。十代後半でそれに気付けたのは幸いであった。

この発見は、更に人生を重ねて来ても訂正の必要はなかった。自分の悩みなど、すでに昔に誰かが経験したものだから、救いの道も、誰かの経験から見つけられるかもしれない。だから私は、若いうちにこそ沢山の本に接することを薦めるのです。

LIBRARY CALENDAR

開館時間：9：00～20：00　9：00～18：00　9：00～16：00　休館日：

10 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	・	・

11 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	・	・	・	・

2020年 1 月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	・

- 【休館】10月9日(水)は大学指定休日のため、10月25日(金)･28日(月) は大学祭準備等のため休館
- 10月14日、11月4日は授業日につき開館　9:00～18:00
- 10月26日(土)･27日(日) は大学祭につき開館　9:00～16:00
- 12月26日(木)～１月5日（日）は冬期休業のため休館

【編集後記】ラグビーワールドカップ 2019 が開幕。袋井にも世界中からラグビーファンが訪れ、盛り上がりを実感しますね。図書館で購読しているスポーツ誌や新聞でも連日情報が伝えられています。日本代表の活躍と大会の成功を願います！

静岡理工科大学図書館報　No.65　2019年10月 1日発行
編集・発行　静岡理工科大学附属図書館　〒437-8555 袋井市豊沢2200-2
TEL: 0538-45-0231, FAX: 0538-45-0230, URL: http://www.sist.ac.jp/lib/,　E-mail: tosyokan@sist.ac.jp